

児童支援専任より

毎年、お正月には箱根駅伝をテレビで観戦します。学生たちがその日のために一年間かけて積み重ねてきた練習の成果を精一杯発揮する姿に胸を熱くさせられます。今年の箱根駅伝で青山学院大学陸上部が二連覇を成し遂げました。原晋監督が打ち出していたのは「ハッピー大作戦」というものでした。その考え方は下記の通りです。

- ・自分が成し遂げたいことを言葉で臆せず発することができる雰囲気をつくり、思いをしっかりと伝えられるようになること
- ・何のためにやるのか、目的をきちんと教えていく。その目的に向けてできそうな半歩先のことを確実にやっていくこと。
- ・「ここが悪い」「ここがマイナス」ではなく、プラス思考でやっていくこと。

選手の自立心や自主性を育てるこの作戦は、青山学院大学陸上部の躍進の原動力になりました。原監督は、選手がミスをすることは許すが、それを隠すなど人を裏切るような行為は認めないといいます。生活面や態度面の基本的な部分はしっかりと指導したうえで成り立つものなのだと思います。

子どもたちのよりよい成長には周囲の関わりが不可欠です。自主的に取り組むことと自由に取り組むことは違います。学校でも家庭でも、教えることはしっかりと教え、子どもたちが進んで取り組もうと思える「雰囲気」をつくるのが大切だと思います。それぞれの「ハッピー大作戦」。取り組んでみる価値がありそうです。